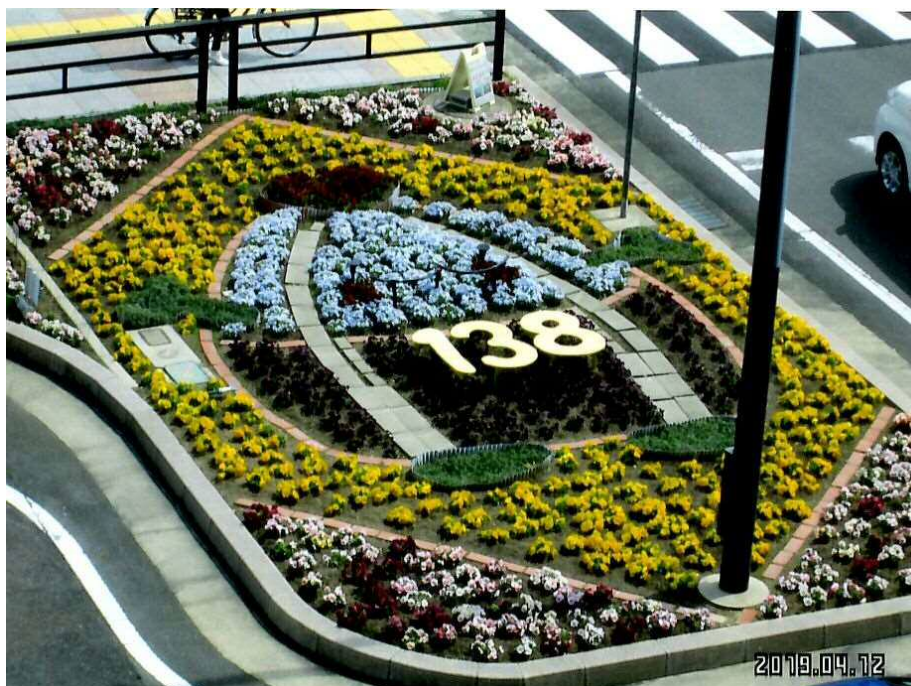


私たちの庭の会 20周年記念誌



旧一宮駅前広場花壇（平成21年7月撮影）



現在の一宮駅前広場花壇（平成31年4月撮影）

会報 第19号

目 次

はじめに	会 長 吉 田 哲 郎	1
市長の言葉	一宮市長 中野 正康	2
20周年記念対談	前一宮市長 谷 一夫	4
	聞き手 吉田 哲郎		
お祝いの言葉	木村 欣子	6
	船橋 信子	8
広がる私たちの庭の会の輪		9
各支部より			
梅ヶ枝公園支部	平山 孝士	10
音羽公園支部	岩田 尚美	12
富士公園支部	溝口日登美	13
柳下公園支部	小川登女代	14
北三味公園支部	河田トモ子	16
奥町公園支部	久保 京子	18
大野極楽寺公園支部	小沼 幸枝	19
大乘公園支部	舟橋 康弘	20
木曾川駅前広場支部	小池 絢子	21
大野極楽寺公園（風）支部	後藤 幸子	22
彦田公園支部	寿 和子	23
各部より			
育土部	奥田 隆次	24
ガーデニング部	齋藤 照美	26
広報部	光寄 恵子	28
私たちの庭の会 20年の歩み（年表）		32
おわりに	田中 均	36

はじめに

「会員の皆様へのご挨拶」

会 長 吉田 哲郎

「私たちの庭の会」20周年おめでとうございます。会員の皆様には、日頃より当会のためにご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

発足当時、私は公園緑地課長として奉職しており、当会の事務局長として関わりました。現在は平成30年度より会長を務めています。

ふりかえると平成時代は多くの自然災害(地震による家屋の倒壊・津波、豪雨による河川の氾濫・山崩れなど)の発生による大惨事の記憶が蘇ります。大変な状況下において、多くのボランティアの方が支援に来てくれ、そうした人々の善意が被災者の励ましとなり、ささやかな心の癒しとなるのではないのでしょうか。

私たちの庭の会の活動も立派なボランティア活動です。花壇に咲く花を通じて「地域市民(私たち)の庭」となるよう、まちづくりに貢献することを目的としています。健康に留意しながら活動していきましょう。

今後とも当会の発展に微力ながら努力いたしますので、宜しく願います。



平成5年 皇太子殿下ご成婚記念モニュメント「比翼」



平成28年6月12日
第27回「みどりの愛護」のつどい
千葉県立柏の葉公園

市長の言葉

一宮市長 中野 正康



「私たちの庭の会」発足 20 周年、おめでとうございます。

20 年前、谷一夫前市長が一宮市広報で「公園を『私たちの庭』にしませんか」という呼びかけたことがきっかけでボランティア活動を開始され、平成 11 年 12 月に梅ヶ枝公園に約 100 人の会員が各家庭で作った生ゴミ堆肥を持ち寄り、腐葉土や牛ふんと混ぜて花壇の土づくりをしたのが最初の共同作業と聞いております。その後会員数が増えるにつれて活動の場が広がり、現在では 12 カ所もの花壇を管理していただいております、大変感謝しております。

「私たちの庭の会」の特徴の一つは、農薬や化成肥料の使用をしていないことです。花の植え替えで抜き取った草花残渣ざんさを細かく刻み、モミ殻、米ヌカと混合して草質堆肥を作ることにより環境負荷の低減を図っているという点は素晴らしいと思います。

また、どの花壇もアイデアを凝らしたデザインになっており、花の選び方、色の組み合わせ、小物の工夫など各花壇の担当者の自由な発想が感じられます。とりわけ一宮駅前花壇は一宮市マスコットキャラクターのいちみんながデザイン図柄となっており、一宮市の玄関口にふさわしいデザインで誇りに思います。

昨今、地球温暖化の影響で猛暑が続き、全国の小中学校でエアコンが導入されている状況です。一宮市のすばらしさである草花などの自然に触れる貴重な体験として、次世代を担う子ども達と協働で作業して下さっていることに感謝申し上げます。さらに、年間通して市民が四季折々の花を楽しむことができるのも、会員の皆様の地道な活動のおかげであり、その重要性を再認識すると共に、貴団体のような活動が一宮市を支

えていただいていると深く感謝するとともに、長年の成果が、「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰をはじめ、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰、全国花のまちづくりコンクール優秀賞などの多数の表彰に繋がっていることに敬意を表します。

これからも「私たちの庭の会」の活動が、市民の皆様の環境保全への意識向上につながっていくことを期待するとともに、会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。



市の木 「ハナミズキ」
(木曾川駅前広場支部花壇)



市の花 「キキョウ」
(旧一宮駅前広場花壇)



平成 26 年 一宮市役所新庁舎完成

20周年記念対談

「私たちの庭の会 誕生の思い出」 前一宮市長 谷 一夫 氏
聞き手 吉田 哲郎

「私たちの庭の会」発足20周年にあたり、谷一夫前市長と吉田会長（発足当時の公園緑地課長）に思い出をお聞きするため、お庭に山野草が咲きヤマボウシの揺れる閑静な谷さんのご自宅をお訪ねしました。

会長：ご在任中は大変お世話になりました。おかげをもちまして「私たちの庭の会」が発足して20年を迎えました。奥様にも特別会員として研修会など一緒していただき、ありがとうございました。では、近況をお聞かせください。

谷氏：市長の時は大変忙しい日々でしたが、今は晴耕雨読ののんびりした生活です。近所の公園を散歩したり皆さんとラジオ体操したりしています。

家内が、JA愛知が主催する「農業学校」で学び、家庭菜園で無農薬の野菜作りをしているので、新鮮な野菜をいただいていますよ。

会長：就任された平成11年6月、市長さん宛に「私たちの庭の会」のきっかけになる1通のFAXが届きました。当時一宮市は「清掃工場」の建て替え中で、ゴミ問題が大きな課題でした。特に家庭から出る生ゴミを堆肥化することにより自然環境への負荷を少なくしようとする風潮でした。「コンポスト」「ボカシ」等への補助があり、多くの市民が協力してくれました。

（「私たちの庭の会 Q&A」を見ながら）

早速8月の広報で設立の呼びかけをしていただきました。これも谷さんのご指導ご協力の賜物と会員一同喜んでおります。

谷氏：確か、当時は梅ヶ枝公園に多くの市民が集まり、当時の副会長の後藤素久さんから堆肥についての説明を受けた後、土作り作業のため、家庭から出た生ゴミ肥を花壇に投入し……結構臭いましたね。この時、孫と一緒に参加したのを覚えています。

それから、ハンギングバスケットを作って旧庁舎のベランダや玄関まわりを花で飾ってもらいましたね。

奥様：尾西公園でお花見をしたり、研修会で浜松のモザイカルチャー世界博に行き初めて見る植栽に感心したりと、いろいろ楽しかった事を思い出します。

谷氏：一宮市花壇コンクール（H14～H29）では、毎年庭の会の皆さんが多く受賞されましたね。

会長：授賞式で市長さんにお会いして一緒に記念写真を撮らせていただき嬉しかったです。

谷氏：庭の会の現況はどうですか？

会長：現在、11支部及び一宮駅前の計12カ所の花壇を管理しています。会員は約120名です。花壇のほか、大野極楽寺の堆肥場で草質堆肥作りなど活動は様々です。近年の異常気象など課題もありますし、会員の高齢化に伴い今後も会員数を増やしていかなければなりません。お知り合の方に庭の会のPRを宜しくお願いします。最後に、ご在任中の特別な思い出はありますか？

谷氏：ツインアーチ138のもと、平成18年全国「みどりの愛護」のつどいに皇太子殿下（現天皇陛下）が来訪され、コヒガンザクラの植樹をご一緒しました。のちに、皇居での桜を見る会でお会いした折、当時のことを覚えていただいていたのは、大変驚き感激しました。令和3年は市制100周年を迎えますね。今後の皆さんの活躍を見させてもらいます。

会長：貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。今後ともご健勝でお過ごしください。



吉田会長 と 前一宮市長 谷 一夫氏



平成21年9月29日
浜松モザイカルチャー世界博2009

お祝いの言葉

「20周年に寄せて」

梅ヶ枝公園支部 木村 欣子

20周年おめでとうございます。結成当時、このように長く続くとは思っていませんでした。花好きな人々が集まって花を育て、数々の失敗や成功の繰り返しで20年という時を築いたのだと思います。当初からのメンバーも五指に満たない程で感無量の思いがいたします。

古いだけ取り柄という事で誕生当時の話をいたします。第4代会長の後藤素久さんがJC(青年会議所)の部会で、ごみ減量運動をされていた折、市の各種団体に声をかけられ「アイネット」という会を作られました。第2代会長橋本さん(社会福祉法人おりすと福祉会会長)のご協力もあり、生ゴミにボカシを入れた堆肥作りの実験が始まりました。新聞紙を敷いた段ボール箱、蛇口有り・無しのバケツ式、衣装ケースを用いたお日様ボックス等種々試作して実用化に力を入れました。当時会員の一人が「堆肥を作っても利用する場所がないので公園の花壇を庭として使わせてほしい」と市長に要望されました。市と後藤さんの意見が一つになり、堆肥を公園の花壇に使うため「私たちの庭の会」が発足する事になったのです。大志地区のほんの一部で生協が生ゴミを集め堆肥化していましたので、後藤さんの近所の音羽公園と大志地区の梅ヶ枝公園の2支部を立ち上げ、初代会長に長屋さん、各支部長に渡辺さんと恒川さんが就任されました。第1回のボカシ入り生ゴミを集めた時は腐敗したものや発酵が不十分なものもあって大変な苦労が重なりました。やっと完成した堆肥を梅ヶ枝公園3面の花壇に入れるにあたり、入れた所と入れない所とを比較実験しました。結果、苗の成育にはっきりした差が出ました。数年後完成した大野極楽寺の5面の花壇でも実験し、良好な結果を得ることができました。一方、後藤さんは市と交渉され、古い機械2基を譲り受ける事となり、大野極楽寺の堆肥場が充実しました。皆様ご存じの残渣利用の堆肥作りが始まったのです。毎日の温度測定、切り返し等綿密にデータが記録され、その労力は大変なものでしたが立派な堆肥ができるようになりました。これが「全国花のまちづくりコンクール」で2度の「優秀賞」受賞

に大きく貢献したのだと思います。

20年という継続の力が今の会を作り上げ、誇れるものになりました。会員も高齢化してまいりましたが若い方々にも関心を持ってもらえるような「美しい花のまち一宮」にしたいものです。

「余談」

- ❁ ご存じでしょうか？名古屋城大手門を入った正面石垣に「爪蓮華」が生えています。昔は、九州に限られていたのですが、九州各藩から寄進された石に付着して遥々名古屋城に根を下ろしたそうです。2月に見た時は小さかったのですが12月には花が咲いていました。是非見てください。
- ❁ 昨年、いちのみや中央プラザ(旧産業体育館)に神山公民館と神山いきいきセンターが統合し完成しました。記念に手芸クラブ「布遊び」のメンバーが作成したタペストリーを寄贈することになり、テーマは市に関係のある建物・風景などです。私は迷うことなく「一宮駅前花壇」に決めました。いちみんカラーの布探しから始まり、色合わせ、題名の刺繍等一針一針心を込めて縫いました。こだわりの植苗ラインもしっかり取り入れてあります。梅ヶ枝公園支部の岩崎さんの「大江川桜まつり」も入っています。一人50cm角の作品を継ぎ合わせ、縦1.7m、横2mの大作が出来上がり、公民館ロビーに展示されています。お近くにお越しの折にはお立ち寄りください。



平成20年10月30日
第18回「全国花のまちづくりコンクール」
優秀賞 一宮市長への報告



令和元年10月1日
いちのみや中央プラザ新築記念のタペストリー

「20年を振り返って」

元本部役員 船橋 信子

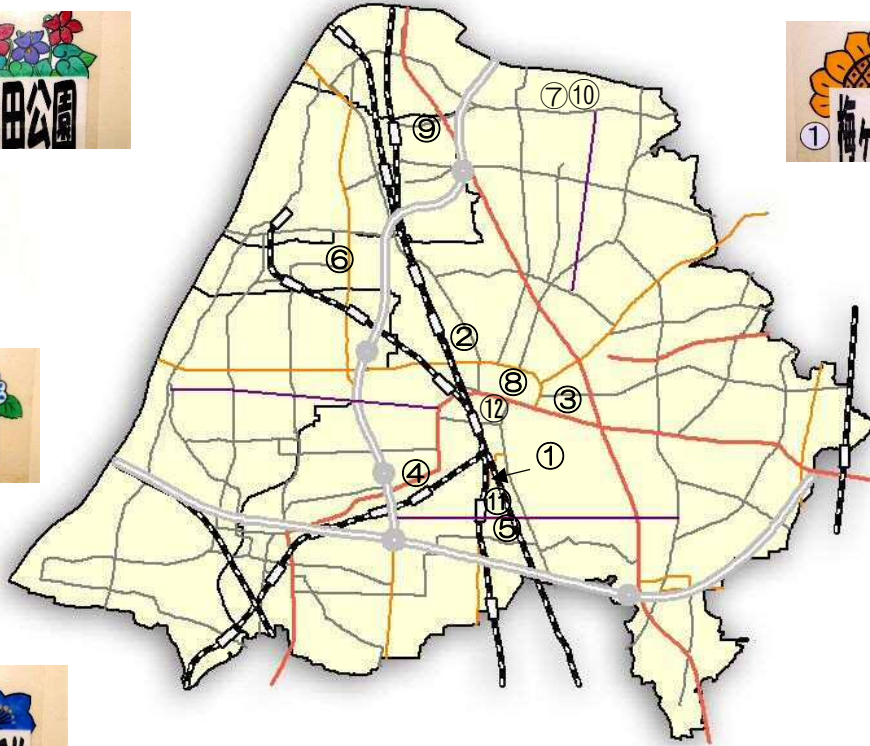
おめでとうございます。設立当時、谷一夫前市長の呼びかけで、私は一宮市内を代表する各種の団体をまとめて公園緑地課を訪れました。市民申し込み会員第一号です。ボランティア会員の入会申し込み場所は梅ヶ枝公園で行われました。なかには「ボランティアをするといくら貰えるの」と言われる方も数名集まりました。主旨を説明すると快く入会していただき、受付をしていた公園緑地課長と私はホッとしました。そして、音羽公園支部や富士公園支部が立ち上がり、市内に花壇が増えていきました。植え込み前には石ころを一つ一つ拾い、整地をし、皆さんがすぐ花壇の植え込みができるように準備しました。自宅のある北方から自転車で市内を走り回りました。若かったなあと思います。

私は平成6年より市の環境センターの課長さんの依頼を受け、施設内に小さな花壇を造りました。除草剤は使用せずに花や木などを自分で植え、夫婦二人でずっと続けています。木の剪定は主人で、花の担当は私です。気力で頑張っています。今は自宅で育てた葉ボタンが8本並んでいます。皆さんの花壇も見えていますよ！

近年、異常気象で夏の水やりは大変かと思いますが、皆さん体に気をつけながら私たちの庭の会の活動を続けてください。



広がる「私たちの庭の会」の輪



No.	支部名	住所
①	梅ヶ枝公園	中町1丁目1番4ほか
②	音羽公園	音羽3丁目13番1
③	富士公園	富士1丁目13番6
④	柳下公園	昭和2丁目8番1
⑤	北三味公園	妙興寺2丁目5番3
⑥	奥町公園	奥町字宮郭7ほか
⑦	大野極楽寺公園	浅井町河田、大野、極楽寺
⑧	大乗公園	桜3丁目14番1
⑨	木曾川駅前広場	JR木曾川駅東側
⑩	大野極楽寺公園(風)	浅井町河田、大野、極楽寺
⑪	彦田公園	花池4丁目25番1
⑫	一宮駅前広場	JR尾張一宮駅東側

※⑫一宮駅前広場の花壇は、全支部で管理しています。



各支部より

梅ヶ枝公園支部

「ボランティア活動万歳」

平山 孝士

私たちの庭の会設立 20 周年に当たり、長年にわたり会員諸氏により地元の環境維持及び憩いの場として管理し、ボランティア活動として携われた皆様に対し畏敬の念の一言では言い表せない努力と汗の結晶のおかげと最大限の賛辞を贈るものであります。

さて、本公園の成り立ちを少し述べます。一宮市内を南北に走行している JR 東海道本線・名鉄名古屋本線・同尾西線は、一宮市の発展に多大に寄与してきましたが、近年の自動車交通の発展に伴い、鉄道の踏切は大渋滞・事故の増加など東西市街地の発展を大いに阻害してきました。そこで、一宮市は開かずの踏切を除去し、市街地の一体的な整備・発展を目指して鉄道高架事業を計画しました。昭和 41 年(1966)より 29 年後の平成 7 年(1995)に市民総意の待望の高架事業が完成しました。その後、平成 8 年より公園としての施設整備・植樹が行われ、平成 11 年に完成しました。平成 12 年には谷一夫前市長を始め横浜国立大学の先生をお招きし、梅ヶ枝公園完成式が盛大に行われました。その時、参加しボランティアとして署名したのが梅ヶ枝公園支部の始まりです。



梅ヶ枝公園支部の特徴

1. 会員構成は、地域性から向山、大志、神山の各連区の方々による
2. 会員数は各連区 5 人程度
3. 花壇は南西に角形（5m×5m）が 3 カ所、北に長方形（2m×3m）1 カ所、南東に丸形（直径 5m）1 カ所の合計 5 カ所
4. 基本的に、第 4 月曜日に花壇の手入れを実施

終わりに、支部の更なる発展に向け会員の増加を図るとともに、会員諸氏の健康と更なるご協力をお願いし、また、他支部との連携を図り庭の会の益々の発展、活躍を祈念し終稿とさせていただきます。



平成 20 年 8 月 全国花のまちづくりコンクールの現地視察
比嘉審査委員長とともに



音羽公園支部

「私たちの庭の会 20 周年記念」

岩田 尚美

私は実家が花屋で花が大好きなのでこの会にご縁があったと感じています。振り返れば様々な思い出が蘇ってまいります。各地への研修旅行、春に行われるリバーサイドフェスティバル、花壇コンクール、秋の緑化フェア、コンテナガーデン・ハンギングバスケットコンテスト、多肉植物の講習会、福祉とボランティア活動展など数多く学び楽しませて頂くことができました。特に秋の緑化フェアで行われる寄せ植え教室では、大人から子供まで混雑するほどの大人気でやりがいのある活動です。良き楽しい思い出となり、感謝です。

これからも健康に気をつけ、活動を続けることが出来ますことを願っています。



富士公園支部

「感謝」

溝口 日登美

早や20年！谷一夫前市長の呼びかけで集まった数十名。梅ヶ枝公園が始まりだったと思います。音羽、富士、柳下、北三味・・・と次々増え、今では12カ所。素晴らしい発展ですね。40代で当会に仲間入りし、今や年金生活する年齢になりました。健康に感謝！有難いことです。多くの出会いがあり、残念ながら数名のお別れもありますが、誰もが花のあるまちづくりに一生懸命で、お花が好きなんですね。植えっぱなしではなく、水やり、草とり、もちろん花殻摘み、植え替え時の残渣は短くカットして堆肥場にて堆肥を作り管理します。知らない事ばかりでしたが、いろいろな体験や勉強をさせていただいております。苗を植え、綺麗に咲いてくれるのは楽しみであり嬉しいことですが、病気や害虫、台風後には公園の状態が気になり様子を見に行ったりして仲間同士の情報交換などを大切にしています。

また、他支部の皆さんにお会いできる研修会も楽しみの一つになっています。令和元年「全国花のまちづくりコンクール」で優秀賞を受賞し、「私たちの庭の会」20周年に華を添えることができ会員として嬉しい限りです。役員の皆様、いつもお世話様です。感謝感謝です。元気な限り当会の会員でありたいと思っておりますので、仲間の皆さま、よろしくお願いいたします。



H29 アイデア賞

柳下公園支部

「柳下公園支部のあゆみ」

小川 登女代

柳下公園支部は平成 13 年の春にハロークラブ(老人会)が主になって発足しました。初めは花壇の石拾いから始め、次にデザインを考え、花の苗を植え、会員一同で手入れをして守ってあげればよいと安易に引き受けて 19 年になります。その間にはいろいろ戸惑う事もありましたが会員一同で解決してまいりました。

スタート時点では 30 名あまりの会員も高齢化などで少なくなり、今では 15 名になりました。若い人の入会を呼びかけなければと考えると、平成 22 年より 3 世帯交流の一環として子供会が参加していただけることになりました。毎回 20 名近くの小学生と役員の参加がある様になりました。私たち会員も子供達から元気な力を頂き、残渣切り、花植え等を一緒に楽しく作業をしています。また、平成 14 年から始まった市の花壇コンクールにおいて 16 回中 12 回受賞させて頂きました。今後とも楽しみながら「私たちの庭の会」を守っていきます。

花壇コンクール受賞の記録

1回 無 賞 2回 無 賞 3回 アイデア賞 4回 アイデア賞
5回 アイデア賞 6回 無 賞 7回 アイデア賞 8回 無 賞
9回審査員特別賞 10回アイデア賞 11回審査員特別賞 12回アイデア賞
13回 市議会議長賞 14回 市議会議長賞 15回 市長賞 16回 市長賞



柳下公園一押し の すべり台



太陽の下、いちみんと遊ぼう



いちみんとともに昆虫採集



3時のおやつは何でしょう



すべてのものに愛を



残渣切り



花植え風景



受賞記念写真



見事に咲いたアガパンサス

北三味公園支部

「20年のあゆみ」

河田 トモ子

平成11年8月16日号「広報いちのみや」で谷一夫前市長が市民に呼びかける記事「公園を私たちの庭にしませんか」を見て、自宅前の北三味公園の掃除ならできると思い葉書で応募し、11月27日の梅ヶ枝公園での発足式に出席しました。会場には地元の黒田元市議も出席されていて後に会員になられ、北三味公園の改修にご尽力いただきました。平成12年5月より毎月第2土曜日に茂った雑草や散乱したゴミの片付けなどの作業を続け、翌年の春先に公園改修工事が終了し花壇が出来ました。

平成13年3月、第2回総会に数名のメンバーと出席し、本部役員より立ち上げについての親切なアドバイスを受けました。

〈活動内容〉

- ・平成13年4月、北三味公園支部を立ち上げ活動始まる。
- ・春と秋の年2回の土づくりと花苗植え。堆肥場にて堆肥づくり。
- ・毎月の公園内清掃。花壇の植物への散水と花殻摘み、草取り。
- ・一宮市花壇コンクールへ参加、リバーサイドフェスティバルや秋の緑化フェアへの参加協力、コンテナガーデンコンテストへ出品。
- ・3年前より“大和3校クリーン大作戦”に参加。公園清掃に生徒や学校関係者と当会会員が集います。竹山市議も除草作業に参加していただいています。

北三味支部の会員の皆様のお陰をもちまして多肉植物に詳しい山下さんや三味線演奏の三野さんとの出会いなど沢山の触れ合いがあった一方、数名の悲しいお別れもありました。



8年間会長を務める中で、全国花のまちづくりコンクールや「みどりの愛護」「みどりの日」功労者など数々の栄えある表彰の席に皆様の代表として臨めたこと、環境について多くを学ぶ機会が得られたことを嬉しく思います。当会会員、地域、子供会の皆様、そして公園緑地課事務局の方々に心より感謝申し上げます。



奥町公園支部

久保 京子

私は、平成 25 年度から奥町公園支部の支部長をさせて頂いています。初代の森豊子さんから数えて 4 代目になります。光寄前支部長さんからの引継ぎの際、たくさんの書類を受け取りましたが、その中に一宮市花壇コンクールの応募申込書の写しが 10 年分ありました。目を通してみると、花壇作りに寄せる皆さんの意気込みや工夫がびっしり書き込まれ、感心することしきりでした。同時に花に関する知識や経験の乏しい自分が支部長としてやっていけるのか、不安を覚えました。「わからないことは教えて頂く」をモットーに何とか今日にいたっています。

奥町公園の花壇について「いかにも奥町らしい」とよく言われますが、年ごとのテーマを追ってみると、なるほどと合点がいきます。グリーン&クール(H18 年度)、やさしい夏(H20 年度)、ラブ・ミー・テンダー(H21 年度)、ピンクとオレンジのハーモニー (H23 年度)、恋する花壇 (H27 年度)・・・色調が控え目で優しさあふれる愛らしい花壇が奥町らしさと言えるのでしょうか。

宿根草を大事に育てて活かす、周りの緑との調和を図る、花壇 4 面それぞれに特徴を持たせながら、全体がバランス良くまとまるようにする・・・これらもずっと配慮されてきたように思います。

また、当支部では長年ボーイスカウト一宮第 6 団の子ども達と一緒に植え込み作業を行い、楽しいひと時を過ごしています。将来、子ども達やお母様方が花に興味を持ってもらえればと願っています。

諸般の事情により、活動できる方が減ってきており心配な面もありますが、無理することなく楽しみながら活動を続けていけたらと思っています。



大野極楽寺公園支部

小沼 幸枝

私たちの庭の会が始まって20年、おめでとうございます！

私たちの大野極楽寺公園支部は平成15年からの参加でもう16年になります。色々な所へ研修旅行に出かけたり、リバーサイ



ドフェスティバル・秋の緑化フェアのイベントやハンギングバスケットの教室に参加したりと、皆さんと一緒に色々な体験を楽しんでいます。

花壇に植える花を考えて選んでみたものの、あまり咲かなかった花、意外にきれいに咲いてくれた花があり、思いは悲喜こもごもです。これからも皆で意見を出しあって楽しく頑張りたいと思います。

今まで何度も表彰されている私たちの庭の会の一員で光栄です。



大乘公園支部

「雑感」

舟橋 康弘

今年度は私たちの庭の会 20 周年を迎えます。発足当時の生ゴミ減量対策や残渣を堆肥化して再利用する主旨に賛同して参加させて頂き、育土を担当してきました。

私事になりますが、一人暮らしが二十年近くになります。年のせいか動くことも少なくなり、自分が機械と暮らしているような日常です。テレビはスイッチを入れさえすれば私に関係なく動いています。返事はしなくてもよいのです。暇なので出かけるところはコーヒー店と病院です。しかし、病院に行けば次々と悪いところが追加され、困ったものです。

当会の活動は、この困りごとを救ってくれていると感じています。知らなかったことや身近な発見に沢山出会えて、視界が開けたようです。

これからも、健康管理のためにも活動を続けていきたいと考えています。



平成 29 年 4 月 25 日
「みどりの日」自然環境
功労者環境大臣表彰
一宮市長への報告



木曾川駅前広場支部

小池 絢子

発足 20 年を迎えた「私たちの庭の会」の中で、木曾川駅前広場支部は今年で 11 年、会員 8 名の比較的若い支部です。JR 木曾川駅が建て替えられ駅の東口に花壇が新設されたのを機に、平成 20 年 3 月に会員 22 名で支部を立ち上げました。

初めはパサパサと乾燥した山の土という質感だったものを皆でほぐしたり、当会で作った堆肥を入れて土づくりをしたりして花苗を植えたそうです。その後、皆で知恵を絞ってデザインを考えたり熱心に草取り花殻摘みなどの世話をしたりしてきました。

おかげで、11 年の間に一宮市花壇コンクールでは、「市議会議長賞」「審査員特別賞（3 回）」「アイデア賞」など受賞しました。また、手入れをしている時に、通りがかりの方から「いつもきれいだね」「写真を撮るのが楽しみだよ」と声をかけてもらう時が何よりも嬉しい瞬間で、私たちの誇りです。



H20



H21



H23



H24 審査員特別賞



H26 審査員特別賞



H27 アイデア賞



H29



R1

大野極楽寺公園(風)支部

後藤 幸子

当支部の花壇は、管理棟より北の方に入った「風のゾーン」と名づけられた一隅にあります。平成 23 年、そこで練習する浅井町グラウンドゴルフクラブの花好きメンバー14名で発足しました。“練習場の傍らに花を”と花壇が作られました。私が入会してから6年。花の育て方、花の病気や性質、堆肥、PH、土づくりなど、色々知ることができました。秋の緑化フェアでは多肉植物の寄せ植えを初めて体験するとともに、寄せ植え教室で子ども達に教える楽しさを知りました。

誇りに思うのは、ハンギングバスケット・コンテナガーデンのコンクールに毎回入賞したことです。沢山のお客様が来られ案内して廻りました。平成 29 年に ICC ケーブルテレビの取材を受けた時には、ドキドキしながら質問に答えたことを覚えております。

研修会では係の方の説明を聞きながら、珍しい花を見ることができました。苦労もありますが、思い出すと楽しいことも沢山あり、これからも仲良く楽しく活動を続けていきたいと思っております。



彦田公園支部

寿 和子

彦田公園は外周 500m程で、県営花池住宅の南側にある木々の緑が豊かな市民の憩いの公園です。北西出入り口の改修に伴い既設の花壇に続き一面増設し、見映えの良い花壇が出来上がりました。それを機会に平成24年に12番目の支部として彦田公園支部が開設し8年になりました。

私たちが管理する花壇は日頃より花池地区「大和光り子供会」との交流があり、春と秋の植え替えの作業を一緒にして頂いています。親子で抜いた花を刻んだり、名前を聞きながら楽しそうに花を植えたりする姿を見ると私たちも力が湧きます。これからも、子ども達と触れ合いながら楽しく活動が続くよう願っています。



大和光り子供会と一緒に！



各部より

育土部

奥田 隆次

育土部の役割は縁の下の力持ち。花の種類やデザインを駆使し、花を咲かせる地面の上の表舞台に対し、地面の下の土づくりは裏舞台です。現在の堆肥作りは、各花壇で切りきざまれた残渣と米ヌカとモミ殻をサンドイッチ方式で積み重ねて発酵させます。

一次発酵・・草花残渣の減容(量減らし)と、その養分をモミ殻に吸着させて微生物による発酵分解(堆肥化)を促す

二次発酵・・一次処理を終えた堆肥素材の検温を行う

発酵が進むと温度が上昇する

その後、下降具合を見ながら切り返しを数回繰り返す

熟成・・微生物分解が終わると発酵温度の上昇が落ち着き完熟化する

効果・・不利益な病原菌、想定外の草花や雑草の種を死滅させる

草質完熟堆肥は、土壌改良材としての役割を担う

こうして、かわいい花苗を十分に生かすために、植え付け前の土づくり・病虫害の予防がなされ、丈夫な根を育てる環境づくりが整います。

今後とも、皆様のご協力をお願いします。



堆肥場



残渣切り



堆肥切り返し



堆肥仕分け



米ヌカ・モミガラ搬入

ガーデニング部

「四方山話」

齋藤 照美

私たちの庭の会発足 20 周年おめでとうございます。

初めて当会を知ったのは平成 15 年大野極楽寺公園支部の開設に伴う募集チラシを見た時です。それから 16 年間のお付き合いが始まりました。木村さんからバトンタッチされたガーデニング部長も 12 年続けています（長過ぎ?）。その間、一宮市花壇コンクール（H14～H29）の選考委員を委嘱され、そこで出会えたプロの先生方より色々と学ばせて頂いた事に大変感謝しています。

支部花壇も年々良くなっていますが、もう少しスキルアップの手伝いが出来ればいいなあと思います。

皆で参加したのは、旧一宮庁舎のベランダに飾るハンギングバスケット作り（H14～H20）、一宮駅前広場花壇のリフォーム（H19）と、i-ビル建設に伴い撤去されていた花壇再開（H24）は大仕事でした。デザインの“いちみん”はブロックやレンガを手作業で並べて仕上げました。

出来映えは？ お花の衣装を着たら可愛いよ～！

旧花壇に植えられていた「クロガネモチ」の木は何処に移植されたかご存知ですか？今は大野極楽寺公園のバーベキュー広場に根を下ろしていますよ。

研修会も平成 16 年から毎年参加しています。庭の会らしく植物に関連した場所を探すのに一苦労でしょうが、楽しみにしています。「さあ、今度は何処かな？」

イベントとしては平成 21 年「いちのみや緑とくらし展」に初出展しました。その後、春は「リバーサイドフェスティバル」秋は「秋の緑化フェア」と名称が変わり、場所も大野極楽寺公園から 138 タワーパークに移りましたが、毎年参加できるのは皆様方のご協力の賜物だと思います。

最後になりましたが、「全国花のまちづくりコンクール」に初応募した

のが平成 20 年です。会長の陣頭指揮で一丸となり、写真・データ集めにと奔走したことを思い出します。その甲斐あってか何と優秀賞！

ワンチームは偉大なり！平成 23 年は入選、平成 26 年は奨励賞、令和元年は 20 周年記念にと応募して二度目の優秀賞を頂きました。毎回受賞していますが、そう簡単に頂ける賞ではないので自慢してよいと思います。

また、長年の実績が「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣賞、「みどりの日」自然環境功労者 環境大臣賞の表彰に繋がって 20 周年の歴史に大輪の花が咲きました。諸先輩方に感謝申し上げます。

これからも、ワンチーム（心ひとつ）で長続きしますように！



旧一宮駅前広場花壇の「クロガネモチ」



大野極楽寺公園に移植された
「クロガネモチ」



旧一宮市役所庁舎ベランダの
ハンギングバスケット飾り



フェンス沿いの
ハンギングバスケット飾り

広 報 部

「一年をふりかえり」

光寄 恵子

今年度は平成31年4月1日新元号の発表で始まり、5月1日令和へと移行しました。まず、春のリバーサイドフェスティバルでは、初日に吉井副会長のライフワークである山野草の寄せ植え教室を実施。丸い軽石の鉢に八ツ手・ヘンリーヅタ・セキショウなどの苗を植え込み、山野の景色を再現する趣き深いものです。同時に3日間テント内で支部の活動紹介のパネル展示をしました。研修会は、モネの池の絵画のような景観を見た後、ぎふ清流里山公園に行き懐かしい昭和の雰囲気を楽しみました。

8月26日は全国花のまちづくりコンクールの現地視察。暑い中、審査の先生方には、ご足労頂きありがとうございます。

秋の緑化フェアは多肉植物の寄せ植え教室を予定していましたが、台風19号接近のため開催中止となりました。いちのみやボランティアフェスティバル(名称変更)では活動紹介のパネル展示。今後もより効果的な展示内容を検討していきたいと思います。12月14・15日木曾川アピタ店にて多肉植物の寄せ植え教室を実施。思いの外、来客が少なかつたけれど、体験された方には楽しんで頂けたと思います。令和2年1月28日新年会として静岡の掛川花鳥園といちご狩りにバス旅行。いろいろなフクロウやインコ、真っ白なクジャクなどが放たれていました。中でも珍しいハシビロコウ(体長は小柄な女性くらい)は低い囲いの中で“動かない鳥”と言われる通り一步も動かず、私たちを横目で鋭く観察しているようでした。

さて、今年度一番嬉しかったことは、全国花のまちづくりコンクールで受賞したことです。応募総数1,543件(団体1,109件、個人434件)の中より大臣賞に次ぐ優秀賞に入りました。10月24日東京霞が関ビル・東海大学校友会館で表彰式がありました。表彰式後の交流会では各地の

活動についての意見交換をされていて、意識の高さに感心するばかり。
願わくば、実力をつけて大臣賞に再チャレンジできれば幸いです。

余談になりますが、会場 35 階からは皇居全景や国会議事堂が望め、こ
のような出席の機会を頂いたことを嬉しく思います。

最後に、今回の 20 周年記念誌の発刊にあたり記録を見直し、改めて私
たちの庭の会の発足と継続にご尽力された諸先輩方の熱意と公園緑地課
のご指導に感謝申し上げるとともに、会員の皆様の変らぬご協力をお願
い申し上げます。

“私たちの庭で楽しく活動できますように！”



中日新聞 (2019年11月7日)

次の頁に、令和元年度の主な活動の様子を写真にて紹介します。



5月3日 山野草寄せ植え教室 5月3~5日活動報告 (パネル展示)



6月13日 研修会 (モネの池・ぎふ清流里山公園)



10月20日 いちのみやボランティアフェスティバル活動紹介 展示



10月24日 全国花のまちづくりコンクール表彰式



12月14・15日 アピタ木曾川店 多肉植物寄せ植え教室



1月28日 新年会 掛川花鳥園・いちご狩り

私たちの庭の会 20年の歩み(年表)

年度	支部開設・閉設 初代支部長	歴代会長・副会長	表彰	一宮市花壇コンクール ハンギングバスケットコンテスト コンテナガーデンコンテスト
平成 11年度 (1999)	私たちの庭の会 発足(11月27日)			
12年度 (2000)	梅ヶ枝公園支部 恒川 久江 音羽公園支部 渡辺 正二	会長 長屋 匡子		
13年度 (2001)	富士公園支部 楠 たず子 柳下公園支部 倉橋 悦子 北三味公園支部 河田トモ子	会長 橋本 定雄		
14年度 (2002)	奥町公園支部 森 豊子	会長 橋本 定雄		第1回(開始) 入 賞: 梅ヶ枝
15年度 (2003)	大野極楽寺公園支部 阪口 俊夫	会長 橋本 定雄 副会長 後藤 素久		市議会議長賞: 北三味 審査員特別賞: 奥町
16年度 (2004)		会長 渡辺 正二 副会長 後藤 素久		市長賞: 音羽 市議会議長賞: 奥町 アイデア賞: 柳下・北三味
17年度 (2005)	大乘公園支部 西岡 磯江	会長 渡辺 正二 副会長 後藤 素久 恒川 久江	138タワーパーク クリスマスディスプレイ コンテスト: 準グランプリ	アイデア賞: 柳下・北三味 審査員特別賞: 奥町・大野
18年度 (2006)	尾西公園支部 前田 旬子	会長 後藤 素久 副会長 岩村 昇 恒川 久江		市長賞: 奥町 アイデア賞: 柳下 審査員特別賞: 尾西
19年度 (2007)	木曾川駅前広場支部 岩田 綾子	会長 後藤 素久 副会長 岩村 昇 木村 欣子		市長賞: 大野 アイデア賞: 奥町 審査員特別賞: 北三味
20年度 (2008)		会長 後藤 素久 副会長 市野 増計 木村 欣子	第18回全国花のまちづくり コンクール: 優秀賞	市議会議長賞: 大野 アイデア賞: 柳下・北三味 審査員特別賞: 梅ヶ枝
21年度 (2009)		会長 市野 増計 副会長 木村 欣子 河田トモ子		市長賞: 奥町 市議会議長賞: 木曾川 アイデア賞: 尾西 審査員特別賞: 北三味
22年度 (2010)		会長 河田トモ子 副会長 木村 欣子 吉田 哲郎	第22回あいち緑化フェア: 都市緑化功労者表彰 市制施行89周年記念: 環境美化奉仕活動表彰	市長賞: 奥町 審査員特別賞: 富士・柳下
23年度 (2011)	大野極楽寺公園(風)支部 吉田 實	会長 河田トモ子 副会長 木村 欣子 吉田 哲郎 平塚弥江子 加藤 英男	第21回全国花のまちづくり コンクール: 入選	市議会議長賞: 奥町 アイデア賞: 柳下 審査員特別賞: 富士・大野

年度	研 修 会	活 動	一宮市・社会の動き
11年度 (1999)			「広報いちのみや」で「私たちの庭の会」を市長が呼びかける
12年度 (2000)			東海豪雨災害 介護保険法の施行
13年度 (2001)		会報第1号発行	エコハウス138開設 i-バス運行開始 9・11米国同時多発テロ
14年度 (2002)	春日井市都市緑化植物園・ 東山動植物園 岐阜薬科大学薬草園	一宮駅前花壇作り開始 一宮庁舎ハンギングバスケット飾り 開始	拉致被害者5名帰国 イラク戦争開戦(H15・3月)
15年度 (2003)	第3回全国ガーデニング サミットinおぶせ 佐布里緑と花のふれあい公園		個人情報保護法の成立 地上デジタル放送開始
16年度 (2004)	浜名湖花博 (浜名湖ガーデンパーク)		中部国際空港の開港(H17・2月)
17年度 (2005)	花フェスタ記念公園 第5回全国ガーデニング サミットin愛知美浜		平成の大合併 新「一宮市」誕生 「愛・地球博」開催
18年度 (2006)	ハイジの村・八ヶ岳倶楽部 なばなの里・四日市橋北地区 花連絡協議会	「みどりの愛護」歓迎用の沿道プラン ター作り	一宮市の木(ハナミズキ)・ 市の花(キキョウ)決定 第17回全国「みどりの愛護」の つどい開催
19年度 (2007)	フローラルガーデンおぶせ・ おぶせフラワーセンター・ 奥裾花自然園 支部花壇視察	庭の会だより第1号発行 一宮駅前花壇リフォーム	新「一宮市民憲章」制定 消えた年金記録問題
20年度 (2008)	ブルーボネット・デンパーク	一宮庁舎ハンギングバスケット飾り 耐震工事に伴い春で終了	ゴミ分別指定袋制度の導入 後期高齢者医療制度の開始
21年度 (2009)	第1回浜松モザイカルチャー 世界博2009	障害者スポーツ大会 初参加 福祉とボランティア活動展 初参加 秋の緑とくらし展 初参加 苔玉、多肉植物寄せ植え ストーンペイント	裁判員制度の開始 日本年金機構の発足(H22・1月)
22年度 (2010)	豊田市緑化センター西山公園・ 小原四季桜	尾張一宮駅前ビル建設に伴い一宮駅 前花壇撤去 秋の緑とくらし展中止(台風の影響) 緑化教室講座 多肉植物寄せ植え	市のマスコットキャラクター 「いちみん」に決定 尾張一宮駅前ビル建築工事着工 東日本大震災(H23・3・11)
23年度 (2011)	木曾三川公園・なばなの里	秋の緑とくらし展 多肉植物寄せ植え ストーンペイント	一宮市役所新庁舎建築工事着工

※ 秋の緑とくらし展→いちのみや秋の緑とくらし展

年度	支部開設・閉設 初代支部長	歴代会長・副会長	表彰	一宮市花壇コンクール ハンギングバスケットコンテスト コンテナガーデンコンテスト
24年度 (2012)	彦田公園支部 佐藤 正弘	会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 平塚弥江子 加藤 英男		アイデア賞：富士・奥町 審査員特別賞：柳下・木曾川
25年度 (2013)		会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 平塚弥江子 加藤 英男		市長賞：大乘 アイデア賞：柳下 審査員特別賞：音羽・木曾川 観光協会賞：大野(風)
26年度 (2014)	尾西公園支部 閉設	会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 加藤 英男	第24回全国花のまちづくり コンクール：奨励賞	市議会議長賞：柳下 審査員特別賞：木曾川
27年度 (2015)		会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 脇田 悦子		市長賞：富士 市議会議長賞：柳下 アイデア賞：木曾川 審査員特別賞：彦田 138クラブ賞：大野(風)
28年度 (2016)		会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 脇田 悦子	第27回「みどりの愛護」 功労者：国土交通大臣表彰	市長賞：柳下 市議会議長賞：彦田 審査員特別賞：梅ヶ枝・大野 市長賞：大野(風) 138クラブ賞：富士 優秀賞：奥町
29年度 (2017)		会長 河田トモ子 副会長 吉田 哲郎 奥田 隆次	「みどりの日」自然環境功労者： 環境大臣表彰	第16回(終了) 市長賞：柳下 アイデア賞：富士 推進協議会長賞：大野(風)
30年度 (2018)		会長 吉田 哲郎 副会長 吉井 哲郎		推進協議会長賞：音羽 運営協議会長賞：大野(風)
令和 元年度 (2019)		会長 吉田 哲郎 副会長 吉井 哲郎	第70回全国植樹祭：会長招待 第29回全国花のまちづくり コンクール：優秀賞	

※ 推進協議会長賞→緑化推進市民協議会長賞

※ 運営協議会長賞→リバーサイドフェスティバル運営協議会長賞

年度	研 修 会	活 動	一宮市・社会の動き
24年度 (2012)	牧歌の里	一宮駅前花壇再開 「いちみん」のデザイン 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え ストーンペイント	尾張一宮駅前ビル(i-ビル)完成 東京スカイツリー開業
25年度 (2013)	花フェスタ記念公園	リバーサイド 親子ハンギングバスケット体験教室 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え ストーンペイント	一宮市役所新庁舎完成 (H26・3月) 富士山が世界遺産に登録
26年度 (2014)	第31回全国都市緑化 しずおかフェア (はままつフラワーパーク)	リバーサイド オリジナル鉢に花植え 秋の緑化フェア中止 (台風の影響)	中野正康市長就任(H27・1月) 消費税8%導入 御嶽山噴火 西日本豪雨 東京オリンピック招致決定
27年度 (2015)	第32回全国都市緑化 あいちフェア (愛・地球博記念公園)	リバーサイド ストーンペイント 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え	戦後70年 マイナンバー制度開始
28年度 (2016)	東山動植物園	リバーサイド 葉物植物寄せ植え 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え	熊本地震 18歳選挙権施行
29年度 (2017)	東谷山フルーツパーク	リバーサイド 多肉植物寄せ植え 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え	
30年度 (2018)	ローザンベリー多和田	リバーサイド 私たちの庭の会活動発表 市民ギャラリー展示 私たちの庭の会活動発表 秋の緑化フェア 多肉植物寄せ植え アピタ木曾川店 多肉植物寄せ植え	豊島将之九段(一宮市出身): 「王位」「棋聖」二冠獲得 豚コレラ発生
令和 元年度 (2019)	モネの池・ぎふ清流里山公園	リバーサイド 私たちの庭の会活動発表 山野草寄せ植え 秋の緑化フェア中止 (台風の影響) アピタ木曾川店 多肉植物寄せ植え	豊島将之九段:「名人」「竜王」 二冠獲得 新元号令和に決定 平成天皇退位 新天皇即位 消費税10%導入 新型肺炎コロナウイルス発生 (R2・1月)

※ リバーサイド→いちのみやリバーサイドフェスティバル

※ 秋の緑化フェア→いちのみや秋の緑化フェア

おわりに

公園緑地課（現 治水課） 田中 均

「私たちの庭の会」発足20周年、おめでとうございます。

あれから20年（笑）、ある漫談家がよく使う言葉です。皆さんはこの言葉をどのように感じていますか？会員全員が同じように時を刻み、同じように歳を重ねます。私の20年前は・・・「私たちの庭の会」立ち上げ時に事務局として携わっておりました。梅ヶ枝公園の南側道路沿いにあるコブシの植樹帯に穴を掘り家庭で発生した生ゴミを投入したところから始まったと認識しております。すごく臭いがきつかったんですよ。コブシが枯れるのでは？と心配する程でした。

他の部局から出戻って4年が経ちました。今年の20周年記念にも携わることができた偶然に驚いています。

庭の会の皆さんが一生懸命作業している姿には、頭が下がる思いです。なんとか「私たちの庭の会」をメジャーにしようと考え、役員の皆さんに様々な提案をしております。無理難題を押し付けることもありますが、創意工夫で乗り切っていただいていると考えております。私たち事務局の提案は、何かの『きっかけ』でしかありません。今年度は全国花のまちづくりコンクールで優秀賞を受賞しました。応募は事務局主導だったかもしれませんが、ひとえに会員全員の努力の賜物に間違いございません。皆さんのボランティア活動に誇りを持ってください。

また、新年会のバスツアーやバーベキューは会員相互の親睦が図られております。支部を超えた繋がりが少しずつ見られるようになりました。素晴らしい取り組みだと思います。

今後も様々な提案をしていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。



編集後記

「令和」への改元の年に発足 20 周年を迎え、初めての記念誌を発行する運びと成りました。

中野市長には、ご多忙中のところお祝いの言葉を頂戴し厚く御礼申し上げます。

谷ご夫妻には、急な取材依頼を快くお引き受けいただき誠にありがとうございました。

また原稿をお寄せいただいた方、写真を提供していただいた方に心より感謝申し上げます。

20 年間の会報誌や総会資料から情報収集を進める中で、「記憶より記録が大事」と実感。特に、写真は「百聞は一見に如かず」です。

令和 2 年に入り、新型コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言が発令され編集作業が滞ることもあり、当初の予定より発行が遅くなりました。お詫び申し上げます。

まだまだ不備な点もあり満足とは言えませんが、皆様のご理解を賜り、今後引き継いでいただければ幸いです。

編集責任者 吉田 哲郎

令和 2 年 8 月発行